



傷を検知して被膜化する新規システム

研究所 元 生体医工学部部長 / 公立小松大学 保健医療学部教授
山岡 哲二 (Tetsuji Yamaoka)



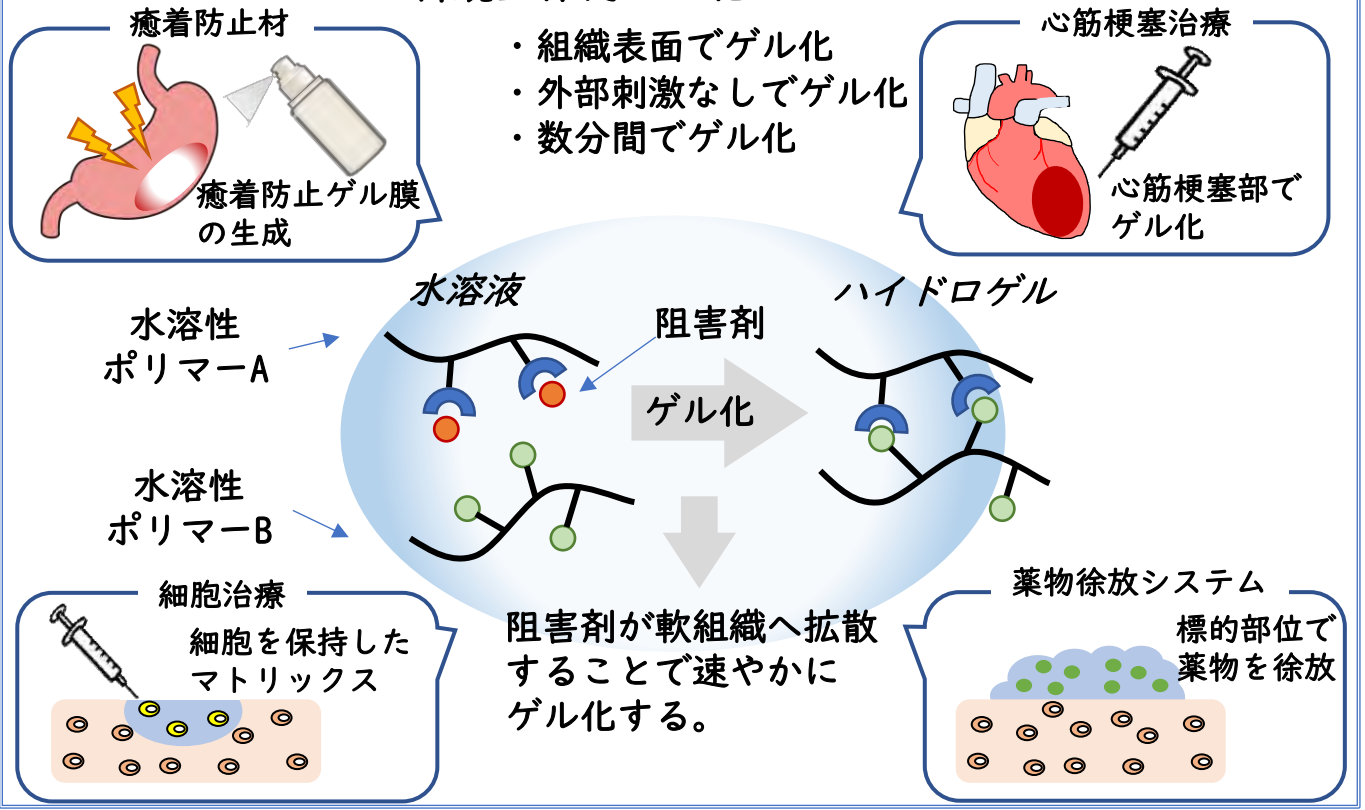
研究の背景・目的

治療後のQOLを保つ低侵襲治療に対するニーズはますます高まっています。生体内でゲル化する材料は、内視鏡術やカテーテル治療に対応できるように注目されてきましたが、ゲル化のために光照射などの外部刺激が必須でした。当部では、軟組織表面に接触するだけでゲル化する新しいシステムを開発しました。外部刺激を必要とせず、軟組織接着性も有しているため、心筋梗塞治療、癒着防止、再生医療、DDSなど幅広い用途への利用が期待できます。

研究内容

新規生体内ゲル化システム

- ・組織表面でゲル化
- ・外部刺激なしでゲル化
- ・数分間でゲル化



期待される効果・応用分野

- ✓ スプレータイプの一液性癒着防止剤
- ✓ 心筋梗塞治および炎症部位に直接有用分子を送達するハイドロゲル
- ✓ 組織再生の足場材料
- ✓ 薬物を標的部で徐放するマトリックス

特許・共同研究等

日本特許第6954529号

研究内容は以下にお問合せ下さい。
公立小松大学保健医療学部 山岡哲二教授
<tetsuji.yamaoka@komatsu-u.ac.jp>

産連本部から一言

医療機器との組合せや再生医療への応用が可能です。特許の使用をご希望の場合、ご連絡下さい。

キーワード：生体内ゲル化材料、薬物送達、軟組織再生、術後癒着防止